黒部市長
大野 久芳

「健やか」「展やか」「朗らか」な黒部の創造に努めます

富山県内の富山市以東地域では唯一、新幹線が停まるのが黒部市。宇奈月温泉やトロッコ電車などで知られる同市にこの春、新人市長が誕生しました。黒部に生まれ育ち、黒部のために奔走する市長に、市への思いをお話しいただきます。

黒部市長
大野 久芳氏

1949年 黒部市生まれ
1967年 富山県立桜井高校普通科卒業
1991年 黒部市議会議員選出、2期活動
1999年 富山県議会議員選出、5期活動
2016年 富山県議会議長就任
2018年 黒部市長に初当選

政治家の締めくくりを市政で新しい黒部の創造に汗をかく

この春、黒部市長に就任したばかり。それまでは市議会議員を8年間、県議会議員を19年間務めていたので、かれこれ30年近く政治に携わっていることになります。自ら政治家を志したわけではなく、青年団活動に一生懸命な私を見た周囲の方から「地域のためにもっと」と何度も勧められ、この道に入ることになりました。

政治家としての締めくくりを、地元のために。そんな思いで市長選に立候補。「健やか」「展やか」「朗らか」黒部の創造を公約に掲げて戦いご支持を得ることができました。「健やか黒部」とは、市民が元気に安心して暮らせるための環境整備であり、「展やか黒部」は、産業の振興を軸としたまちの活性化。「朗らか黒部」は、子どもの教育や生涯学習の充実化を通じていつも笑顔で暮らせるまちづくりを進めるもので、本年度スタートした第2次総合振興計画をベースに実現を目指しています。

また、ハードよりソフトに重きを置きたいとも考えています。就任前から継続中の「道の駅」や「くろべ市民交流センター（仮称）」の整備が完了した後は、教育・福祉などのソフト事業を優先的に行いたいですね。道路や建物といった目に付きやすいハード事業が後回しになると何かと不安を抱え疑問に思う方もいらっしゃるでしょうが、丁寧に説明して理解を得ていくつもりです。

子育て支援の向上を図り、女性の活躍推進にも意欲

ソフトの施策と言えば、まず注力したいのが子育て支援。低所得者層の子どもの保育料を限りなく無償化に近づけると同時に、中学生までが対象となっている医療費の無償化を18歳に拡大します。また、高校生への奨学金なども予算枠をできるだけ多く取り、希望する対象者にはくまなく、貸与でなく給付型で支援できるよう準備中です。学校教育については、中学校を4校から2校に統合し、教育内容の充実化に取り組んでいるところです。

それから、女性の起用もどんどん進めたいですね。人口減の時代には、女性の活躍推進が必須。まずは市役所からと考えていますが、能力があるのに前に出ようとしない方が多い気がしており、女性自身の意識改革も図りながら、女性が力を発揮しやすい環境づくりを追求しています。この7月には市長自ら「イクボス宣言」を行い、「ノー残業デー」の庁内アナウンスも私の声で実施。ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて環境整備に力を入れています。

移住・定住の増大を狙って雇用の創出や交流人口拡大を

黒部市の人口は現在、約42000人。地方の過疎化が加速度的に進む中、本市の人口が微減で済んでいるのは、YKKをはじめとした世界的企業が雇用を生み出しているからでしょう。名水と呼ばれる爽やかで清らかな水が豊富なこのまちは、ものづくりには絶好の場所。黒部川扇状地という地形が私たちに豊かな恵みをもたらしており、今後も工業団地を整備して企業誘致に取り組みたいと思います。

と同時に、黒部宇奈月温泉駅の開設で新幹線効果が実感される中、それをさらなる持続発展に繋いでいけるように、観光を軸とした交流人口の拡大や移住・定住の促進などにも尽力したいですね。宇奈月温泉や黒部峡谷鉄道など、山の周辺には有名な資源がたくさんありますが、実は海にも魅力的な場所が多々あり、富山湾に臨む生地（いくじ）地区では、湧き水や歴史遺産、海鮮グルメや黒部名水ポークなどを満喫する「まちあるき」コースを用意しています。それに来春にはなんと、「ももいろクローバーZ春の一大事2019」コンサートの黒部市開催が決定。まちは今その話題で持ちきりの状態です。

また市長としては、このような施策をしっかり実行していくためにも、災害対策を何としても進めねばと感じています。地震、台風、豪雨、酷暑…。想定外の自然災害がいつ起こっても慌てず対処できるよう、県や国の力も借りて整備を進めたいですね。これまでは議員として市長に質問する立場でしたが、今は逆に質問を受ける側。職員と同じ目線で気持ちを一つにして、市民のために努力していく所存です。

意識共有のため職員との打ち合わせも念入りに